

**製品名: ORC1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab15495**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	100,120kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ORC1
別名	ORC1; ORC1L; PARC1; Origin recognition complex subunit 1; Replication control protein 1
遺伝子 ID	4998.0
SwissProt ID	Q13415
免疫原	抗血清はヒト ORC1L 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 331-380

**背景**

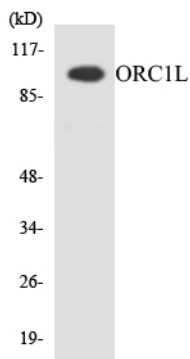
複製起点認識複合体 (ORC) は、真核細胞における DNA 複製の開始に必須の、高度に保存された 6つのサブユニットからなるタンパク質複合体です。酵母を用いた研究では、ORC が複製起点に特異的に結合し、Cdc6 や Mcm タンパク質などの追加の開始因子の組み

立てのプラットフォームとして機能することが実証されています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ORC複合体の最大のサブユニットです。他のORCサブユニットは細胞周期を通じて安定していますが、このタンパク質のレベルは細胞周期中に変動します。これは、DNA複製開始後のユビキチンを介したタンパク質分解によって制御されることが示されています。このタンパク質は、有糸分裂中に選択的にリン酸化されることが分かっています。また、転写サイレンシングの制御に関与するタンパク質であるMYSTヒストンアセチルトランスフェラーゼ2 (MyST2/HBO1) と相互作用することが報告されています。選択的スプライシングによる転写機能: 複製起点に結合する複製起点認識複合体 (ORC) の構成要素。染色体複製と接合型転写サイレンシングの両方に関与する。複製起点のARSコンセンサス配列 (ACS) にATP依存的に結合し、転写終点の転写産物を転写する。類似性: ORC1ファミリーに属する。類似性: 1つのBAHドメインを含む。サブユニット: ORCは6つのサブユニットから構成される。CDC6およびMYST2/HBO1と相互作用する。

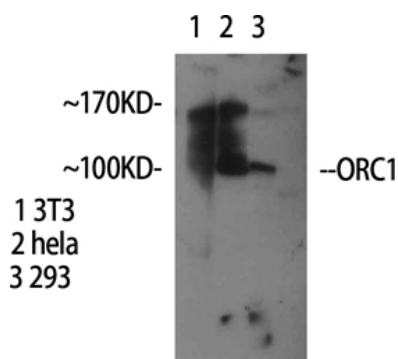
## 研究分野

細胞周期 G1S;細胞周期 G2M\_DNA;

## 画像データ



ORC1L抗体を使用したHepG2細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



ORC1ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析

ORC1 ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析

